

(様式6)

天野 (辻村) 弘美 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Application of 18-item DEOS for dementia elderly people living at home and its reliability and validity

(在宅で暮らす認知症高齢者への18項目版DEOSの適用とその信頼性・妥当性)

THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL(in press)67 : 191~202, 2017.

Hiromi Tsujimura, Kikuko Iwanaga, Yumi Sato

論文の要旨及び判定理由

本研究の目的は、在宅で暮らす認知症高齢者に対して18項目版DEOS (Dementia Elderly Odayaka Scale) を適用し、その信頼性と妥当性を明らかにすることである。対象はA県にある15施設の訪問看護ステーションを利用している在宅で暮らす認知症高齢者93名とした。3名の評価者(看護師2名と家族1名)が1名の対象者に対して、2週間程度のインターバルにおいて18項目版DEOSの調査を2回評価した。結果、因子分析では第Ⅰ因子、Ⅱ因子、Ⅲ因子ともに構成項目の因子負荷量は高く、因子間の相関係数については、第Ⅰ因子と第Ⅱ因子が0.75、第Ⅰ因子と第Ⅲ因子が0.75、第Ⅱ因子と第Ⅲ因子が0.74であった。2評価者間一致率においては、各項目の平均得点差が0.5~0.8、看護師と家族における2評価者間の総得点のICC(1回目)は、0.75 ($p < 0.01$)、2回目0.73 ($p < 0.01$)であった。また、看護師と家族における2評価者間の各質問項目別のICCは、0.47~0.67 ($p < 0.01$)であった。評価者内一致率では、Test-retestによるICCは、看護師においては0.93 ($p < 0.01$)、家族においては0.97 ($p < 0.01$)であった。尺度全体のCronbachの α 係数は0.95であった。以上より、妥当性・信頼性が検証されたものであると認められ、博士(保健学)の学位に値するものと判定した。

(平成29年8月22日)

審査委員

主査 群馬大学大学院教授
看護学講座 内田 陽子 印

副査 群馬大学大学院教授
生体情報検査科学講座 林 邦彦 印

副査 群馬大学大学院教授
看護学講座 大山 良雄 印

参考論文

1. 施設で過ごす認知症高齢者への「改定版おだやかスケール（18項目版DEOS）」の適用
日本看護研究学会雑誌、39（4）：89－96, 2016. 辻村弘美、小泉美佐子
2. 認知症高齢者のおだやかスケールの開発
THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL 60巻2号：119-134, 2010 辻村弘美、小泉美佐子